

東 彼 杵 ダ ラ フ

14 / 23 郷 平似田郷

地域で大切にされている弘法さま。
風薫る溪谷に靈験あらたかな仏像が美しかった。
おいしく装飾された千綿駅でのひと時、
ヤギおじさんのガイドも楽しかった。



UMIHICO



装飾された千綿駅でゲストを迎える
↓ 堀越美貴さん(右)と北村直子さん(左)



人が集う心躍る駅へ

海を眺めながら小さな子どもがホームでおにぎりを食べている。その姿を若いお父さんがカメラにおさめた。この冬、JRの「青春18きっぷ」ポスターに採用されて、町外からも多くの人を訪れるようになった千綿駅。タイミングよくして、駅舎にデザイン事務所「UMIHICO」が誕生した。町民に愛着のあるレトロなたたずまいはそのままに、デザイン業務や町の特産品の販売を始めた。

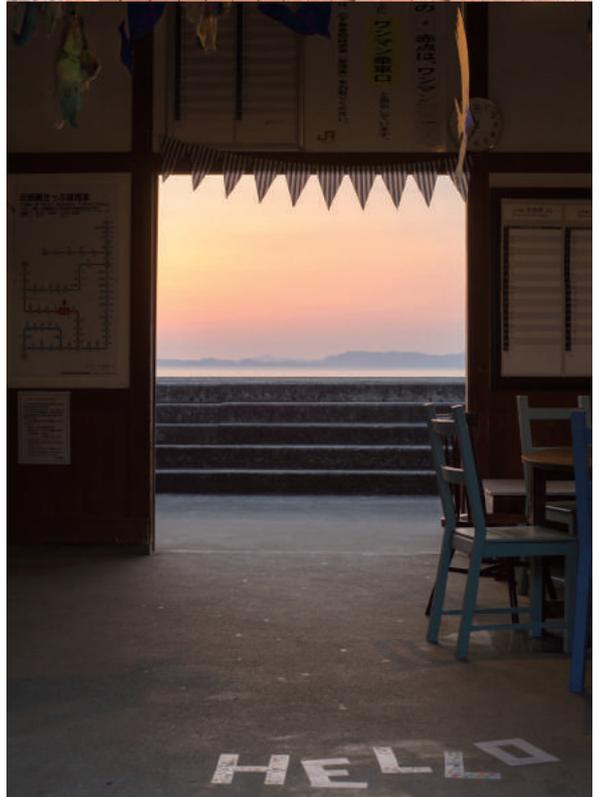
「UMIHICO」は画家の堀越美貴さんとデザイナーの北村直子さん、そしてこの東彼杵グラフで写真を担当する堀越隊員が携わる新しい形のデザイン事務所。「千綿駅は、神戸から移住して初めて見た時からお気に入りの場所。にぎわいを生み出す拠点にしたいですね」と美貴さん。

駅舎内は美貴さんたちの作品で楽しい空間になった。頭上にかわいい鳥たちのオブジェが飛び交い、足元には“HELLO”の文字が輝く。きっぷ売場にはデザインされたおにぎりを並べた。手書きの黒板にはそのぎ茶を使ったカフェメニューもあり、丸テーブルで自由にくつろげる。

装飾は季節などにより変えている。観光客はもちろんのこと、通勤や通学で駅を利用する町民に楽しんで欲しいと美貴さんは話す。「足元と天井をいつもワクワクする仕掛けで出迎えることが、私たちにとって地域活性の入口だと思っています」

ほかにも写真のイベントやワークショップなどを定期的に行い、「いつも何か面白いことをしているね」と言われるようなワクワクを企て中。平似田郷の農家さんとも一緒にトラック市を開催した。

駅にはランドセルを背負った子どもたちがいるかと思えば、レモネードを持ったカメラ女子もいる。さまざまな人が交差する魅力的な駅へ、さりげなく変わってきた。



↑ 町民の思い出の駅舎は変わらない。もちろん美しい夕陽も

↓ 千綿地区の美味しいお米をカチにしたおにぎり



地 域 に 息 づ く 弘 法 さ ま 信 仰

千綿駅からは上り道が続き、振り向いた景色はどんどんよくなる。公民館の向かいに「弘法溪谷→」という小さな看板を見つけた。このごろは新緑が本当に心地よい。溪谷へ行ってみよう。

開けた場所に出ると、コンクリートでできた舞台があった。弘法大師の忌日となる4月21日（旧暦3月21日）は地区で例祭を行っており、班ごとに歌や踊りなどの出し物をして盛り上がるそうだ。上流部へ進むとトイレ、休憩所のような小屋がある。次にお土産店やそば店でも出てきそうだが、その先は仏像群だった。霊場の雰囲気は辺りを漂い背筋もピンとなる。

子どもの頃からお参りしているという射場トシ子さんに話を聞いた。「昭和の初め、長崎の穴弘法から清崎智光さんというお坊さんが来て盛んに布教活動をされたそうです。お参りに行けば接待してくれて、ご詠歌のお稽古なども。ご祈祷して病気が治った人もおらして、平似田郷だけでなく、木場やら宿やら多くの人がお参りにこらしたようです。仏像もその頃に増えたらしかです」。射場さんの母にもご利益があり、お参り後に待望の男子が生まれた。

「昔は狭かところに土俵があって例祭では青年相撲でにぎわった。拍手して一生懸命応援しよったのを覚えとりますよ」と元校長先生の氏福章さんは懐かしそうに当時を振り返る。

出会う住民みんなが「弘法さま」と親しんで呼び、大切にされているのがわかる。戦後、水害などで一度は荒廃したが、地域の協働作業によって復旧した。獣道だった参道を整備したのも住民によるもの。今でも草払いや掃除は欠かせない行事。だから気持ちがいい場所なのだろう。これからの時期は避暑にもぴったり。また訪ねてみたい。



左 瑞々しい緑と風が気持ちよかった弘法溪谷

右上 仏像のほとんどは昭和4～5年にかけて寄進されたもの

右下 溪谷を見守る弘法さま。昔はその前の淵で子どもたちが水遊びをしていた

じに わぎ りわ 進い 行創 中生



↑三井木場集落で整備したかかし村を歩く

四つ池のひとつ、三井木場池をぶらりしていると、ヤギと散歩中の山口文好さんに出会った。池の畔のかかし村は、三井木場集落で荒れた茶畑を整備した時に、ユニークなかかしを作って花を植えた。「なんか変わったことをせんばと思っかね。孟宗竹を使ったオブジェづくりも考えとるよ。材料は山に行けばいっぱいあるけん」とさらなる展開を話す山口さん。

観光バスの運転手だった山口さんは各地の名所をたくさん見てきた。それに引けを取らない景観が自宅の前に広がる。ここも人が集まる場所にしたい。

間伐材と萱で手作りした休憩所は、誰でも使っているので「お気軽に」と書いた。雑草を食べてくれるだけでなく、田園風景にも合うからヤギを飼った。夏ごろには仔も生まれる予定。

次は、裏山にやぐらを組んで展望台を作りたいと考えている。展望台候補地に登ると、木々の間からもすばらしさがわかる。三井木場池の上に中池があるように見えて面白い。何本か伐採すれば四つ池すべて、さらに大村湾も見えるようになるという。昔からここにあった、カエルのような大岩も名物になりそうだ。

「ここらは隠れた人気モノがいっぱいあるとよ（笑）」。
ヤギの髭のごとく立派なもみあげの山口さんもそのひとつに数えよう。

※ 平似田郷へは、町営バス「千綿駅前」「千綿中学校下」
「平似田公民館前」「薬師堂前」「丸尾」「春木」のバス停を利用。

次回は三根郷。お楽しみに！



↑カエルや爬虫類にも見える大岩



↑「昔の縁側のような場所にしたい」と山口さん。
車の中にはカラオケも！